第15章 否定・省略・強調

Point 122

480 □□□
(a) 私はあの人たちをみんな知らない。
I am acquainted with (　　) of them.
(b) 私はあの人たちをみんなは知らない。
I am not acquainted with (　　) of them. 〈学習院大〉

481 □□□
"Are your parents afraid of heights?"
"Not (　　); my father often flies in airplanes on business."
① either ② any ③ all ④ both 〈芝浦工大〉

482 □□□
Cheap things are not (　　) economical.
① always ② neither ③ hardly ④ scarcely 〈玉川大〉

Point 123

483 □□□
The students did not understand that lecture in the (　　).
① least ② less ③ little ④ few 〈中京大〉

484 □□□
スポーツをすることは決して時間の浪費ではない。
Playing sports (a waste / is / means / by / of / time / no).
〈東海大〉

整理 44 代名詞(形容詞)を用いた部分否定と全体否定

	部分否定	全体否定
2人(2つ)	not (...) both	neither ... not ... either
	どちらも…というわけではない	どちらも…でない
3人(3つ)以上	not (...) all not (...) every	none no＋名詞 not ... any
	すべてが…というわけではない	どれも…でない

481 「ご両親は高いところは苦手ですか」
「2人とも，というわけではありません。父は，仕事でよく飛行機に乗ります」
482 安いものが必ずしも経済的なわけではない。
483 生徒たちは，その講義をまったく理解できなかった。

Point 122 部分否定と全体否定

480 3人以上の場合の部分否定と全体否定 標準

▶(a) **3人(3つ)以上を前提に「誰も(どれも)…ない」の意味の全体否定を表すには，none を用いる**(➡左頁の【整理44】)。

▶(b)「すべてを…というわけではない」の意味の**部分否定を表すには，not … all を用いる**(➡左頁の【整理44】)。

!!注意 **not … every** も部分否定を表すが，every は形容詞の用法しかなく，直後に必ず名詞を伴うので，本問の(b)の正答とはならない。

+プラス (a)は，**not … any** を用いて，次のように表現しても同意。
I am *not* acquainted with *any* of them.

481 2人の場合の部分否定 標準

▶文脈から「両親のどちらもが高いところが苦手なわけではない」の意味にする。2人の場合の部分否定だから，not both の形を作る(➡左頁の【整理44】)。

482 **not always**「いつも…とは限らない」—副詞を用いた部分否定 基本

▶**副詞を用いた部分否定**表現の **not always**「いつも／必ずしも…とは限らない」を選ぶ。

▶③ hardly，④ scarcely は「ほとんど…ない」という否定的意味の副詞。not と合わない。

+プラス 副詞を用いた部分否定表現には，他に **not necessarily**「必ずしも…というわけではない」，**not completely**「まったく…というわけではない」などがあるが，「常に／まったく／完全に／正確に」という意味の副詞が否定文中で用いられると，一般に部分否定を表すと考えておけばよい。

Point 123 強意の否定表現

483 **not (…) in the least**「少しも…でない」 標準

▶**not (…) in the least** で「少しも…でない」という強い否定の意味を表す。**not (…) at all** の同意表現と考えてよい。

484 **by no means**「決して…ない」—強い否定を表す副詞句 標準

▶強い否定を表す **by no means** という副詞句を使って文をまとめる。

整理 45 強い否定を表す副詞句

以下の副詞句は，いずれも「**決して…ない**」という強い否定を表す表現。

- **by no means** (➡484)
- **in no sense**
- **under no circumstances**
- **in no way**
- **on no account**

!!注意 上記表現が文頭に来ると倒置が生じる(➡466，467)。

480 (a) none (b) all 481 ④ 482 ① 483 ① 484 is by no means a waste of time

485 I have no doubt (　　) about his ability.
□□□
① nothing　② quite　③ whatever　④ least　〈西南学院大〉

486 For short stays, Canada does not require that we obtain visas to enter the country, and (　　).
□□□
① neither the U.S. does
② the U.S. does neither
③ the U.S. doesn't, either
④ the U.S. doesn't, too　〈慶應義塾大〉

Point 124

487 彼は決して友人を裏切るような人間ではない。
□□□
He (last / the / his / person / who / betray / would / is) friends.
〈中央大〉

488 The prime minister made a long speech, but the message was (　　) but clear.
□□□
① anything　② everything　③ nothing　④ something　〈武蔵大〉

489 (a) We were not at all satisfied with his answer.
□□□
(b) His answer was (　　) from satisfactory to us.　〈名城大〉

490 The new theory has (　　) to be proved.
□□□
① already　② become　③ been　④ yet　〈聖学院大〉

491 It (　　) to be seen whether or not the operation was successful.
□□□
① proves　② stays　③ turns　④ remains　〈西南学院大〉

485 私は，彼の能力に関してはまったく疑いを持っていない。
486 短期滞在では，カナダは入国ビザを取ることを必要としないし，アメリカ合衆国も必要としない。
488 首相は長い演説を行ったが，言いたいことはまったく明瞭ではなかった。
489 (a) 私たちは彼の答えにまったく満足しませんでした。
(b) 彼の答えは私たちにはまったく満足のいくものではありませんでした。
490 その新しい理論はまだ証明されていない。
491 その手術が成功したかどうかはまだわからない。

485 **no＋名詞＋whatever**「まったく…でない」 発展

▶「**no＋名詞**」の後に **whatever** または **whatsoever** を置いて「まったく…ない」という強い否定の意味を表す用法がある。

486 否定文 **, either.**「…もまた…ない」 標準

▶**肯定文**で「…もまた(…である)」の意味を表す場合は文尾に「**…, too.**」を置くが，**否定文**で「…もまた(…でない)」の意味を表す場合は文尾に「**…, either.**」を置く。

＋プラス and 以降は，and *neither does the U.S. / nor does the U.S.* と表現しても同意であることを確認しておこう(➡**471**，**472**)。

Point 124 ⋮ 否定語を用いない否定表現

487 **the last A＋関係代名詞節**「決して…しないA」 標準

▶「**the last A＋関係代名詞節**」で「最も…しそうもないA／決して…しないA」という強い否定の意味を表す。

＋プラス **the last A to do** の形もあるので注意。
He would be *the last* person *to tell* a lie.
(彼は決してうそをつくような人ではない)

488 **anything but A**「決してAではない」 標準

▶**anything but A** は「決してAではない」の意味。通例Aには名詞または形容詞が来る。

＋プラス よく似た形の **nothing but A=only A**「Aだけ／Aにすぎない」，**all but A=almost A**「ほとんどA」もここで押さえる。

489 **far from A**「決してAではない」 標準

▶**far from A** のAには，動名詞・名詞の他，形容詞が来ることに注意。

490 **have yet to do**「まだ…していない」 発展

▶**have yet to do / be yet to do** で「まだ…していない」という否定的な意味を表す。

491 **remain to be done**「まだ…されていない」 発展

▶**remain to be done** は「まだ…されていない／これから…されなければならない」という否定的な意味を表す表現。

▶前問の表現を使えば，**remain to be done=have yet to be done / be yet to be done** の関係となる。

---

485 ③ **486** ③ **487** is the last person who would betray his **488** ① **489** far
490 ④ **491** ④

492 彼は読みきれないほどマンガ本を持っている。（1語不要）
□□□ He (books / read / than / he / can / has / not / more / comic).
〈聖学院大〉

Point 125

493 その夫婦は，外国に行くときはいつも子どもを連れていく。
□□□ The couple (taking / go abroad / without / never) their children with them.
〈駒澤大〉

494 It never rains (　　) it pours.
□□□ ① when　② that　③ as　④ but
〈武庫川女子大〉

Point 126

495 Lung cancer can be cured if (　　) in time.
□□□ ① discover　② to discover
③ discovered　④ discovering
〈福井工大〉

496 There is little, (　　), hope of recovering the data.
□□□ ① if any　② if ever　③ if only　④ if some
〈西南学院大〉

494　2度あることは3度ある。〈ことわざ〉（←降れば必ずどしゃ降り）
495　肺ガンは，発見が早ければ治療できる。
496　データが回復する見込みは，たとえあるにしても，ほとんどない。

492 more (A) than+S+V…「…できないほど(のA)」 発展

▶**more (A)+than+S+V…**の形で「…できないほど(のA)←…する以上(のA)」という否定的な意味を表す場合がある。

▶本問の than は目的格関係代名詞(➡316)。

!!注意 整序問題では，本問のように，日本語の「…できない」という否定の部分にからめて，不要語 not とともに出題されることが多い。**than 以下は肯定形になることに注意。**

+プラス 以下は，名詞Aを用いない **more than+S+V…**の例文。
That is *more than I can do.* (それは私の手に負えない)

Point 125 二重否定の表現

493 never ～ without doing「～すると必ず…する」 標準

▶**never[cannot] ～ without doing** で「…しないで～しない／～すると必ず…する」という二重否定の意味を表す。

494 never… but S+V ～「…すれば必ず～する」 標準

▶この but は主節が否定文のときに用いられ，それ自体が「～しないで」という否定の意味を表す接続詞。したがって，**never[not]… but S+V ～**で「～しないで…しない／…すれば必ず～する」という二重否定の意味を表す。

!!注意 本問の but は入試ではまだ出題されているが，古い表現なので，日常的に使うのは避けた方がよい。本英文はことわざ。

Point 126 様々な省略表現

495 副詞節での「**S+be 動詞**」の省略 標準

▶**副詞節中では「S+be 動詞」が省略されることがある。**特に副詞節中の主語が文の主語と一致している場合に多い。本問は if *it is* discovered in time の it (=lung cancer) is が省略された形。

496 if any「たとえあるにしても」 標準

▶**if any** は「㋐たとえあるにしても…はほとんどない，㋑もしあれば」の2つの意味で使われる。本問は㋐の用法。

▶通例 if any は，本問のように **little** や **few** などの，準否定の形容詞とともに用いる。

+プラス ㋑は，Correct errors *if any.* (誤りがあれば訂正せよ)といった使い方をする。

▶② if ever が不可の理由は次問の!!注意を参照。

---

492 has more comic books than he can read (not 不要)
493 never go abroad without taking　494 ④　495 ③　496 ①

497 I seldom, (　　), go to my hometown in Hokkaido.
□□□ ① if any ② if ever ③ if never ④ if rarely 〈東京薬大〉

498 John isn't a bad boy. If (　　), he's a pretty good one.
□□□ ① anybody ② anything ③ nobody ④ nothing 〈専修大〉

499 You should stay here at least a week, (　　) a month.
□□□ ① if not ② as well as ③ as long as ④ even if 〈名古屋学院大〉

Point 127

500 Was (　　) Jack that sent me the book?
□□□ ① he ② it ③ who ④ him 〈日本工大〉

501 It was only when I read her letter (　　) I realized what was happening.
□□□ ① how ② that ③ why ④ which 〈大阪大谷大〉

502 私は，月曜日になって初めて事務所に電話した。
□□□ It (the / I / Monday / not / that / office / phoned / was / until).
〈東海大〉

497 私は，たとえあるにしても，めったに北海道の故郷に帰ることはない。
498 ジョンは悪い子ではありません。どちらかといえば，彼はかなり良い子です。
499 あなたは１か月とは言わないまでも，少なくとも１週間はここに滞在すべきです。
500 私にその本を送ったのはジャックでしたか。
501 彼女の手紙を読んで初めて，私は何が起きているのかわかった。

497 if ever「たとえあるにしても」 標準

▶**if ever** は，通例 **seldom / rarely**「めったに…しない」などの準否定の副詞とともに用い，「たとえあるにしてもめったに…しない」の意味になる。

!!注意 ① if any は不可。**if any は few や little などの準否定の形容詞とともに用いる**からである。if any と if ever は，どちらも日本語にすると「たとえあるにしても」という意味になり紛らわしい。**few や little の後では if any，seldom / rarely の後では if ever** と正確に押さえておくこと。

498 if anything「どちらかといえば」 発展

+プラス **if anything** は，**if any**「たとえあるにしても」(➡496) と同じ使い方もあるので注意。

499 if not A「Aではないにしても」 読解 発展

▶**if not A**「Aではないにしても」のAには通例，名詞・形容詞・副詞が来る。読解上も重要な表現。

Point 127 強調構文

It is ... that ～「～するのは…だ」の形で，完成された英文を前提としてその中の強調すべき語句を It is と that ではさんだものを強調構文という。
なお，強調構文で強調できるのは名詞表現と副詞表現であり，形容詞表現と動詞表現は不可。また，名詞表現で「人」を強調する場合は that の代わりに who や whom を，「人以外」を強調する場合は which を用いることもある。

500 Was it Jack that ...?—主語を強調した疑問文 標準

▶平叙文であれば It was Jack that ... となるが，本問は疑問文なので *Was it Jack* that ... の形となっている。

▶強調構文を用いなければ，英文は以下の疑問文となる。
Did Jack send me the book?

501 It was only when ... that ～—副詞節の強調 標準

▶It was[is]の後に副詞表現が来ていれば，強調構文と考えてよい。

!!注意 **It is only when ... that ～**は「…して初めて～する」と訳すのが自然。

502 It is not until ... that ～「…して初めて～する」 標準

▶強調構文を用いた慣用表現として押さえておく。

!!注意 本問のように整序問題で問われることが多い。

+プラス 前問の **It is only when ... that ～**は，本問の表現を使って言いかえられる。
It was *not until* I read her letter *that* I realized what was happening.

497 ② 498 ② 499 ① 500 ② 501 ②
502 was not until Monday that I phoned the office

503 私のいない間に，私の日記を読んだのはいったい誰だ？
□□□ (　　) (　　) (　　) that read my diary while I was out?
〈日本工大〉

504 間違っているのはぼくではなく君の方だ。（1語不要）
□□□ It (who / I / is / am / you / but / are / not) wrong. 〈工学院大〉

Point 128

505 She doesn't talk much, but once she (　　) speak she is eloquent.
□□□
① has ② had ③ does ④ did 〈城西大〉

506 いったい私を何だと思っているんだ。
□□□ (did / earth / for / me / on / take / you / what)? 〈東北学院大〉

505 彼女はあまりしゃべらないが，いったん話をすれば雄弁である。

503 疑問詞＋**is it that**(＋S)＋**V…?**—疑問詞の強調 標準

▶強調構文で**疑問詞を強調**する場合は，「**疑問詞＋is it that(＋S)＋V…?**」の形になる。疑問詞の後は is it の疑問文の語順になること，また that 以下は平叙文の語順になることを押さえておこう。整序問題でもよく問われる。

504 **It is … who** 〜—複雑な形 発展

▶**主語である「人」を強調する場合，that 以外に who を使うことができる。**本問は，そのパターンを作る。

▶強調すべき部分を，not I but you とすることに注意。**not A but B** が主語の場合は，動詞はBに一致させる(➡p.157【整理39】)。よって，who の後には are を用いることになる。am が不要。

Point 128 ⋮ その他の強調表現

505 **do / does / did**＋動詞の原形—動詞の強調 標準

▶**動詞を強調する**場合は「**do / does / did＋動詞の原形**」にする。本問は現在時制で she が主語なので「does＋動詞の原形」にする。

▶本問の once は「いったん…すると」の意味の接続詞(➡376)。

506 **on earth**—疑問詞の強調 標準

▶**疑問詞の直後に on earth / in the world / ever などの語句をつけて，疑問詞を強調する**用法がある。本問は What on earth で始めればよい。

▶本問の what は，take A for B「AをBだと思う／誤ってAをBと考える」(➡778)のBを問うたもの。

503 Who was it　504 is not I but you who are (am 不要)　505 ③
506 What on earth did you take me for